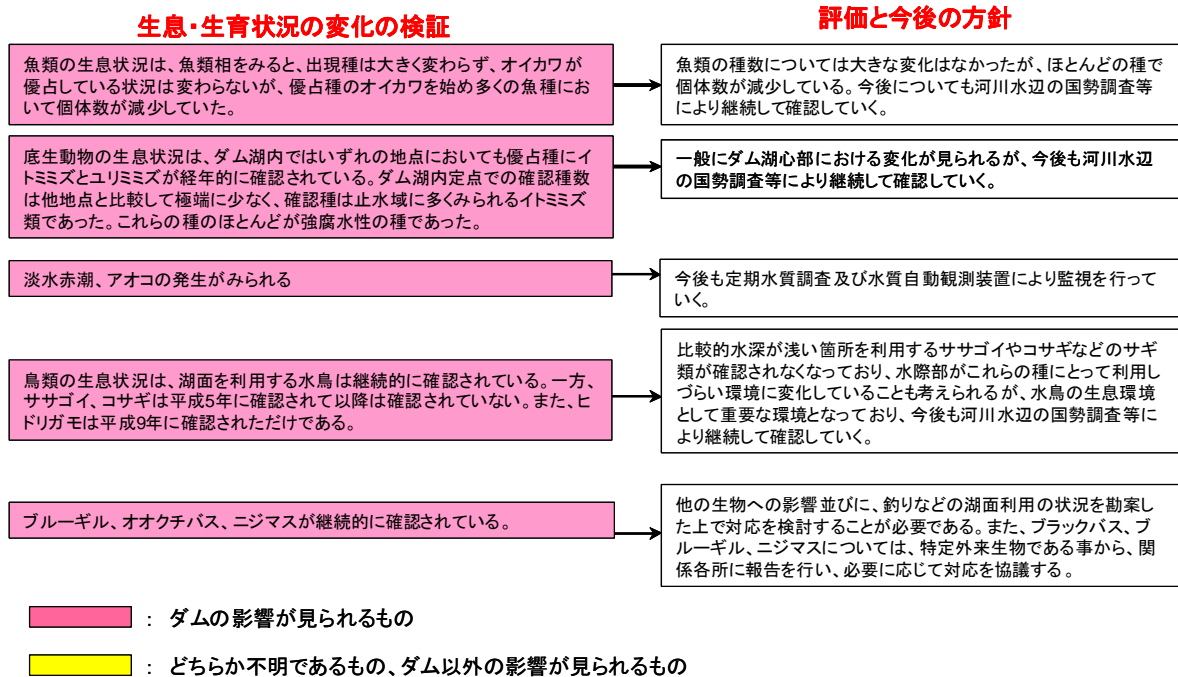


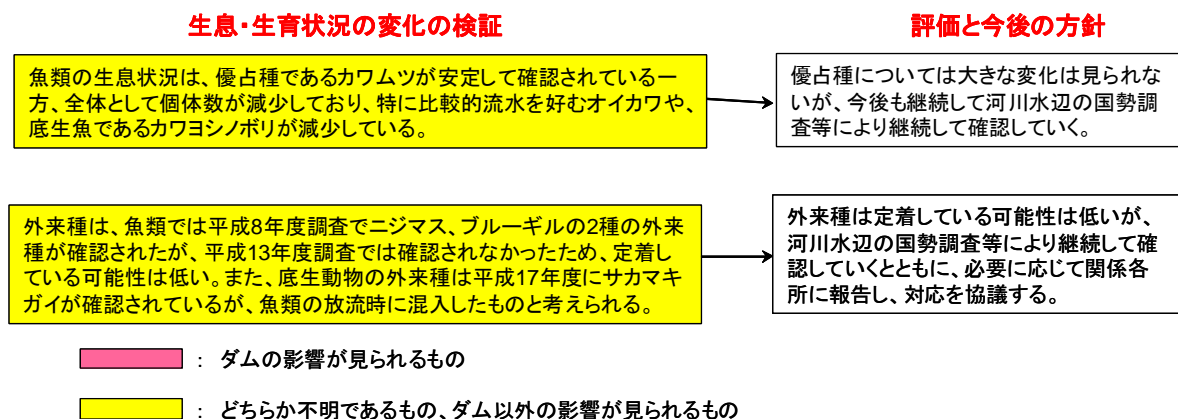
6.5 まとめ(案)

ダム湖内、流入河川、下流河川、ダム湖周辺と環境区分ごとに考えられる環境要因と生物の生息・生育との関係を整理し、まとめた内容を以下に示す。

(1) ダム湖内



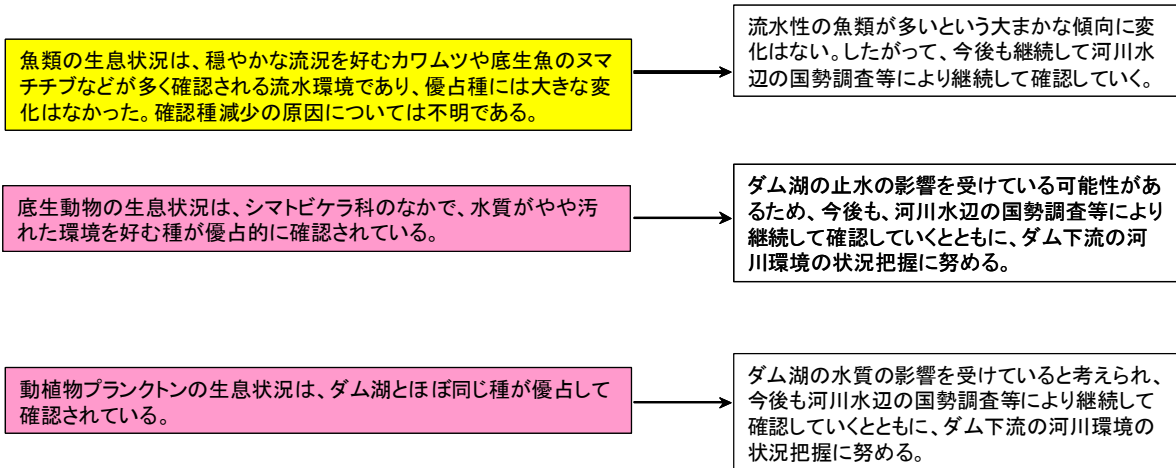
(2) 流入河川



(3) 下流河川

生息・生育状況の変化の検証

評価と今後の方針

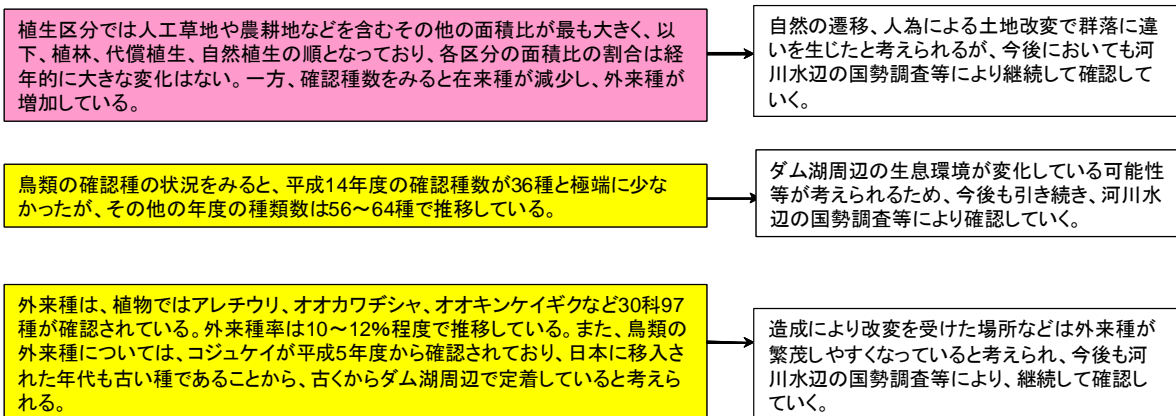


: ダムの影響が見られるもの
 : どちらか不明であるもの、ダム以外の影響が見られるもの

(4) ダム湖周辺

生息・生育状況の変化の検証

評価と今後の方針

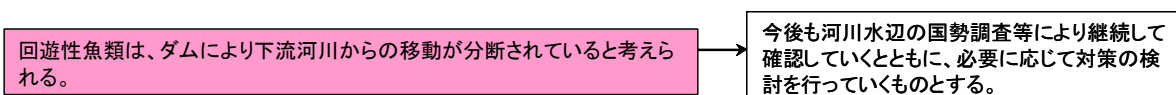


: ダムの影響が見られるもの
 : どちらか不明であるもの、ダム以外の影響が見られるもの

(5) 連続性の観点から見た生物生息・生育の状況

生息・生育状況の変化の検証

評価と今後の方針



: ダムの影響が見られるもの
 : どちらか不明であるもの、ダム以外の影響が見られるもの

生物のまとめ(案)を以下に示す。

- ・植生区分では人工草地や農耕地などを含むその他の面積比が最も大きく、以下、植林、代償植生、自然植生の順となっており、各区分の面積比の割合は経年的に大きな変化はない。一方、確認種数をみると在来種が減少し、外来種が増加している。
- ・布目ダム湖周辺は、スギ・ヒノキ植林やコナラ群落等が分布し、動物の生息場として利用されている。
- ・ダム湖内は、オイカワ、ニゴイ、ギンブナなどの生息が確認されたほか、マガモ、カイツブリ、オシドリ等の水鳥が確認されているなど動物の生息場として機能している。
- ・ただし、魚類、鳥類に関して直近の調査では全体的に確認個体数が減少する傾向がみられる。
- ・ダム湖、流入及び下流河川において、ニジマス、ブラックバス、ブルーギルといった外来種が確認されている。その他の外来種として鳥類ではコジュケイ、両生類ではウシガエルが確認されている。

<今後の方針>

布目ダム周辺における動植物の生息・生育状況については、一部で湖岸植生の変化、外来種の確認等がみられるが、全般的に顕著な変化は認められない。しかし、魚類、鳥類に関して全体的に確認個体数が減少している傾向がみられ、その要因が定かでないこと、外来種に関しては在来種への影響等が懸念されることなどから、今後も継続して調査を行い、その対応について検討を行う。